

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ①クロームブックの「タブレットドリル」や「まなびポケット」(ドリルパーク、学習探検ナビ)を活用したことで、学習内容を繰り返し復習し、基礎的・基本的な知識及び技能の習熟につなげることができた。また、2年以上の2・3学期は、1学期の東京ベーシック・ドリル診断シートの正答率に応じた復習課題に取り組む機会を設けたことにより、1学期と比較して、5～15%程度の正答率の伸びにつながった。
- ②身近な問題を取り上げ、【問題把握→自力解決→集団検討】という一定の流れで授業を展開したことにより、児童が思考を整理しながら学習することができた。
- ③上記②により、児童が興味をもって課題に取り組むことができた。また、具体物・半具体物を操作する活動を意図的に取り入れたり、その半具体物等を教室や算数教室でいつでも触ることができる環境にしたりすることで、児童の学習意欲を更に高めることができた。

(2) 課題

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の一層の習熟を図るため、学習内容を繰り返し復習することに、継続して取り組む必要がある。具体的には、今年度リニューアルされたクロームブックの「タブドリ」を活用した復習や、東京ベーシック・ドリルによる学年をまたいだ復習課題への取組を、授業や宿題の中に適切に位置付けていく必要がある。
- ・児童が様々な集団の中で自分の考えを適切に表現することができるようにするため、昨年度に引き続き、授業の中に、児童が言語のほかに図や表、式などを活用して自分の考えを伝え合う場を設定する必要がある。
- ・毎時間の学習を振り返る時間を確保するよう、全校で継続的に取り組む必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	全体的に目標値と同程度である。		
第5学年	全体的に目標値を若干下回る。	全体的に目標値を上回る。(第4学年時)	
第6学年	全体的に目標値を下回る。	全体的に目標値を若干下回る。(第5学年時)	全体的に目標値と同程度である。(第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を若干上回る。	目標値を若干下回る。	目標値と同程度である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5・6年とも、目標値を若干下回る。	5・6年とも、目標値を若干下回る。	5・6年とも、目標値を下回る。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数える・数の大小を比べる・測る・半具体物を操作するなどの活動に繰り返し取り組む。 ・「タブドリ」等を活用して、デジタルベースでも学習内容の復習に繰り返し取り組む。	・算数ブロックを並べたり、式や簡単な図をノートに書いたりして、自分の考えを表現する。また、友達とその表現を見せ合って、異なるやり方を見たり、互いの考えを比べたりする。	・学習のめあてを意識して、見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、ごく簡単な学習の振り返り（ハンドサイン、選択肢も可）を各単元の終末等に位置付ける。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「タブドリ」や「まなびポケット」内のアプリ等を活用して、学習内容の復習に繰り返し取り組む。 ・長さ・重さ・面積の量感をもつことができるようにするため、実際にふれたりはかったりする活動を取り入れる。	・式、図、文や文章をノートに書いて、自分の考えを表現する。また、友達とその表現を基に話し合うなどして、異なる考えの比較、関連付け、組み合わせなどを行い、考えを広げたり深めたりする。	・学習の必要感をもたせるため、身近で具体的な出来事を基にした学習課題に取り組む機会を設ける。 ・児童自身が学習の意義を味わうことができるようにするため、文字言語による学習の振り返りを授業の終末等に位置付ける。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「タブドリ」や「まなびポケット」内のアプリ等を活用して、学習内容の復習に繰り返し取り組む。 ・長さ・重さ・面積・体積の量感をもつことができるようにするため、実際にふれたりはかたりする活動を取り入れる。	・課題解決のためにどの既習事項が活用できるかを考えたり話し合ったりするよう促し、問題解決の見通しをもたせる。 ・式、図、文や文章をノートに書いて、自分の考えを表現する。また、友達とその表現を基に話し合うなどして、異なる考えの比較、関連付け、組み合わせなどを行い、よりよい問題解決方法を探るようにする。	・児童の知的な好奇心を満たすとともに、学習の必要感をもたせるため、身近な出来事やニュース等を基にした学習課題に取り組む機会を設ける。 ・児童自身が学習の意義を味わうことができるようにするため、文字言語による学習の振り返りを授業の終末等に位置付ける。